



広報 か わ じ 第46号

発行 川路まちづくり委員会 編集 総務企画部 印刷 (株)秀文社

天龍峡大橋完成

三遠南信自動車道開通プレイベント開催
—そらさんぽ。峡谷の眺めにわくわく—

11月10日(日)三遠南信自動車道が天龍峡ICから龍江ICまで開通しました。パーキングエリアで行われたプレイベントには、およそ一万人が訪れ、秋晴れの渓谷を橋の上から楽しみました。

天龍川に架かる天龍峡大橋は、山鳩色に塗られたスリムなフレームです。その下部に、設置された添架歩廊の愛称を、飯田市が募集したところ、全国から29通の応募がありました。

審査の結果、川路在住の平岩真由美さんの「そらさんぽ天龍峡」が愛称に選ばれました。

開会式で、命名者の表彰が行われ、ステージ上がった平岩さんは、「娘が静岡に暮らしているので、訪ねるときJR飯田線を利用しています。天龍峡駅を出てすぐのトンネルを抜けると、鉄橋から峡谷の上に、大橋が見えてきます。まるで、空を散歩するような橋に思えた」と、発想の一端を語りました。



三世代渡り初め

そらさんぽ天龍峡を渡っていた、市内から訪れた女性六人組は景観がすばらしい。愛称もびったりだと話してくれました。近くに住む園児を連れた母親は、ドローンの映像で見られない景色を、この歩道から眺められるのはすごい、と感嘆の様子でした。まさしく、景観のイメージをうま

く表現した愛称と言えます。開会式のあいさつで牧野市長は、天龍峡の発展を後押しする施設になることは間違いありませんと、天龍峡の活性化に期待を寄せていました。



天龍峡大橋渡り初め

天龍峡PAの活性化について

川路まちづくり委員会
会長 中島 千明

11月17日、三遠南信自動車道が天龍峡から龍江までの区間と、天龍峡PAが完成しました。

当初、ICとSAの用地として、広大な面積が買収されました。しかし、高規格幹線道路に変更されたため、PAとなり、その一部にイベント広場が設けられました。飯田



添架歩廊 名称プレイトお披露目

市と地元の尽力によって、それを周辺地域で借りることが可能となりました。

天龍峡と千代の間には、天龍川に架かる大橋と、その下部に添架歩廊が設置されて、峡谷を眼下に眺めることができます。一帯の景観の良さは、観光客の増加を促すでしょう。如何にもてなすのか、アイデアや知恵が必要となります。

観光の語源は、「豊かな地域を見て回ること、地域を誇りに思うこと」と中国の故事にあります。観光は、そこに携わる人だけのものではありません。テント市や、軽トラ市等、多くの人が関わることでできる企画を立案して、賑わいを創出したいと考えています。

ここに住む私たちが、誇りを持てる地域の実現に向けて、頑張りましょう。

川路地区市政懇談会

去る8月23日(金)川路公民館で川路地区市政懇談会が開催されました。

一部では、牧野市長の市政経営の方向と題した講演。二部は「川路タウンミーティングの成果と課題」、「天龍峡インター周辺整備と天龍峡一帯の観光」、「組合加入者の現状と課題」について川路地区住民と飯田市との意見交換が行われました。

市政経営の

方向と課題

飯田市長 牧野光朗

牧野市長の飯田市政の方向と題する講演で、令和元年度の主な取り組みをお聴きしました。そのなかで、川路に係わるのは天龍峡ICー龍江ICの開通。とりわけ、天龍川に架かる天龍峡大橋の開通です。

平成20年に開通した山本ICー天龍峡ICから11年の歳月を経て龍江ICまで開通し、山本ICから喬木ICまでの14・6キロが11月17日に完成となります。



それに伴い、天龍峡インター周辺の整備、天龍川を挟んだ国定公園内の遊歩道の整備が急ピッチで行われています。ハード面の整備の後、いかに観光客を呼び込むかは、地元と行政が一緒になって、知恵を出すことが大切との説明でした。

8年後にはリニアの開通も控えており、大きく変貌することは間違いありません。その反面、若者の流出が懸念されます。移住定住を主な取り組みに入れ、20地区に「田舎へ還ろう戦略」を推進しています。こうした施策の展開が、川路に係わる飯田市の大きな事業です。

川路タウンミーティングの報告

全区に出向いて、基本目標・具体施策などを説明する機会を設け、地区の皆さんの意見・質問・要望をお聞きする「タウンミーティング」を開催。市長から「とても意味のある素晴らしい事だ」と好評を頂きました。

市政懇談会に於きまして川路地区全区で開かれました「タウンミーティング」についてお話させて頂きました。5月に「川路まちづくり委員会のキックオフミーティング」を行いました。参加者が限定されていて住民の皆さんに理解して頂けたか?と疑問を抱きました。そこでまちづくり委員会役員が全区へ出向いて、今年度の基本目標・具体施策などを説明する機会を設け、さらに住民の皆さんの意見・質問・要望をお聞きする「タウンミーティング」を開催したのでした。その経緯について、発表後

飯田市長より「全地区をまわったタウンミーティングはとても意味のある素晴らしい事だ」と好評を頂きました。市政懇談会は、市長と市民が一堂に会し、市長自らが市政経営の考え方や市政の重要課題を語ると共に、地域の課題や市民の皆さんの思いを一緒に考え、意見交換する場として開催することを目的としています。その事からしても「タウンミーティング」は川路まちづくり委員会と住民の皆さんが「より良い川路地区にするために」と考え、話し合いをする重要な場であると発表しました。

- (1) 広報や川路ホームページ公開に関する事
- (2) 川路土地利用計画策定に関する事
- (3) 川路居住憲章に関する事
- (4) 延長保育・未満児保育・児童クラブに関する事
- (5) 川路まちづくり委員会の運営に関する事
- (6) 天龍峡インター周辺整備及び天龍峡観光に関する事
- (7) 「川路に帰ろう!プロジェクト」に関する事

今回、皆さんの貴重な意見・要望を市側に上手く伝える事ができたか不安でしたが、市長が「タウンミーティング」の主旨を理解して高く評価され、又、結果についても深く考えてくださっている姿が見受けられました。まちづくり委員会として今後も「より住みよい川路」になるよう区民の皆さんと一緒に考えていきたいという思いを強く持った市政懇談会でした。

今回発表させて頂いた「タウンミーティング」の報告は8項目に振り分けました。

(8) 市政懇談会に関する事
以上報告でしたので、市からの回答は特別出されませんでした。きつと市側も結果を持ち帰って、取り組める部分はしっかり検討して頂けることと思います。



天龍峡インター周辺の整備について 天龍峡再生と地域全体の活性化

天龍峡大橋・インター・PAの完成が間近となり工事が急ピッチで進められています。天龍峡インター周辺の整備についてハード面とソフト面から質問要望をしました。

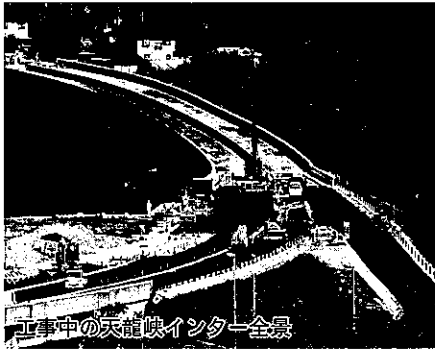
〈ハード面〉施設整備と管理
PA内は施設整備されるが、夜間の管理対策の考えは

◇PA内の緑地帯管理は
◇調整池からの配水路管理は

◇残土処理と跡地の整備は
【市の回答】

川路地区を含めり地区からの要望である。PA自体が国の管理のため、定期的な管理を要望していく。

また地域開催イベントにあたっては地域がスムーズに利用できるよう市が間に入る。緑地帯は緩衝帯として国が



工事中の天龍峡インター全景

管理するので改めて国へ要望していく。

調整池からの排水は初沢川への排水となり、上流部分は

国、下流部は市の管理となる。仮工事の露出管は撤去する。

残土と跡地整備は具体的なことは定かでない、国に適切な管理を要望する。

〈ソフト面〉天龍峡周辺の観光との連携

◇観光振興に対して、市としての支援について

◇天龍峡ガイダンス施設と姑射橋周辺一体となった誘客について市の考え方

【市の回答】

天龍峡観光の振興について

は「おもてなし戦略」の地域への浸透を図り、いかに魅力を発信し、お客さんに来て頂

きおもてなしができるか。地域としっかり議論し、連携して取り組むことが大切で先ずはアイデアを出し、地域と一

緒に取り組みたい。

天龍峡大橋、ガイダンス施設、姑射橋周辺それぞれが持つ役割を十分に生かせるよう

魅力発信することが必要。遊歩道は多くの人に歩いてもらえるような工夫が必要。インターから大橋、竜東道を渡っ

て姑射橋というルートは高低差がありハードなので、段階的なコースを設けてPRすることを考えている。川沿い

は「かわらんべ」、「エコバレー」等もあるため全体としての広がりを持った観光誘客を目指したい。

新規加入者や未加入者の現状と課題 「川路居住憲章の紹介」

憲章を制定した背景、地区の皆さんに理解をして頂くまでの過程、今後の課題を説明し、市の助言を頂きました。

川路は飯田市の中でも唯一人口が増えている地区ですが、地域活動に参加して頂けない方が増え、地域を支える担い手が減少してしまっは、川路の将来は弱体化してしまします。そうならない為に、川路居住憲章を制定し、具体的な九つの実践項目を計画しました。今後川路に移住される

方は、地域活動の重要性を理解して頂き、川路の将来を一緒に担って頂くことを納得して移住して頂く事が大切になります。その為に、不動産関係の皆さんに協力を頂き、事前に理解をして頂いてから川路へ移住して頂く様に進めて参ります。川路自治振興センター内にも「専門窓口」を開

設済みで、不在地主等への働きかけを含め支援を開始しております。又、既に川路に移住され、未だ組合に加入されていない方には、地域活動の重要性を、粘り強く説明する機会を持ち、焦らずに、時間をかけて理解をして頂く様に進めて参りたいと考えております。以上の趣旨を市の関係者の皆さんに説明させて頂きました。この説明に対し、牧野市長から、「川路の先進的な活動に敬意を表します。飯田市としても、重要な課題と認識し各地区の自治会と協力

して、組合加入の促進を進めておりますが、川路地区には他地区の活動状況の紹介や、川路居住憲章の実践項目推進に向けて積極的に支援をさせて頂きたいと考えております。」と前向きな評価を頂きました。市政懇談会以降、川路まちづくり委員会として、不在地主の皆さんに、川路自治振興センター内に開設しました「専門窓口」の案内をお送りしました。又、十二月に飯伊不動産関係者への説明とお願いを計画しております。又、組合に加入されていない皆さんに対しては、十一月にまちづくり委員会の説明会を予定しており、この広報がお手元に届く頃には、何らかの進展があることを期待しております。



新築ワッショウの川路

タウンミーティング

―直接、住民の声を聞く―

副会長 平田 浩一郎

川路まちづくり委員会は、七月から八月にかけて、全地区で、タウンミーティングを行いました。おそらく、この地区にもない初めての試みではないかと思えます。

内容はより一層理解して頂くために、事前に全戸に資料を配付して、意見・質問・要望など、どんなことでも聞かせてもらいました。

直接、住民の皆様から考えや提言を聞かせてもらうことは大切で、毎年実施してもよいのではないかと感じました。



タウンミーティング

川路地区は長野県の南の玄関口として、大きく変貌していく時期にあります。

最初は、話す側、聴く側、双方ともに堅い雰囲気でしたが、どの地区も、川路憲章や天龍峡インター開設、延長、未満児保育に対して、さまざまな意見が出されました。

さらに、若者が参加してくれた区、区内を分けて開催した区、区の進行役が事前に他地区へ下調べにいられた区などがありました。

まちづくり委員会が掲げる基本目標やその実現に向けた具体施策を、地域の皆様にしっかりと理解してもらう企画で

また、これらの話し合いが

申し上げます。

望

私が考える川路の未来のデザインは、「地域

してくれる。お互いに挨拶をし合うことで自然と笑顔になることができます。今の川路は、挨拶と笑顔に溢れていると思います。このままの川路がずっと続いてほしいです。

てほしいと思います。さらに、よそから来た人でも、ここはあたたかくて良い所だなあと

代田

協力しあえ、笑顔があふれる場所」です。登下

小学校、中学校共に、人数が減ってきていますが、地域の方々の協力を得て、収集活動も、学校行事もスムーズに進められています。本当にありがたいことです。

そのことが実感できる、この川路の協調性がずっと続い

竜峡中3年

「こんにちは」と挨拶をすると

笑顔で「おかえりなさい」と返

た。さらに、役員会便りを発行し、活動を住民に分かりやすく伝える工夫を重ねてきました。ホームページの開設はこうした広報活動の集大成といえるものです。

シリーズ 私が考える川路の未来デザイン ⑧

あたたかな明るい故郷

笑顔で「おかえりなさい」と返

た。さらに、役員会便りを発行し、活動を住民に分かりやすく伝える工夫を重ねてきました。ホームページの開設はこうした広報活動の集大成といえるものです。



挨拶運動

まちづくり委員会のホームページ開設

副会長 今村 正 大

「まちづくりって何をやっていくの？」という声を、役員就任時から耳にしていました。そこで、まちづくり委員会の活動を、詳しく説明するキックオフミーティングを行い、タウンミーティングも実施しました。さらに、役員会便りを発行し、活動を住民に分かりやすく伝える工夫を重ねてきました。ホームページの開設はこうした広報活動の集大成といえるものです。

このホームページの住所です。ホームページの開設によ

kawai-machidukuri.com



天龍峡大橋

川路まちづくり委員会 ホームページのトップページ